

プログラム

第1日目 9月13日 (金)

8:50~9:00

開会の辞

9:00~10:20

【シンポジウム 1】

SS・IgG4RD 病態機序と臨床応用

座長：高橋 裕樹（札幌医科大学医学部 免疫・リウマチ内科学）

武井 正美（日本大学医学部 内科学系血液膠原病内科学分野）

S1-1 IgG4 関連疾患の病態と治療へ向けて

前原 隆（九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野）

S1-2 自己免疫性膵炎における IgG の病原性とその抗原同定

塩川 雅広（京都大学大学院医学研究科 消化器内科学講座）

S1-3 IgG4 関連疾患の病態における濾胞性ヘルパーT 細胞の関与

中山田真吾（産業医科大学医学部 第1内科学講座）

S1-4 IgG4 関連疾患の疫学と動物モデル

吉藤 元（京都大学大学院医学研究科 内科学講座臨床免疫学）

10:20~11:40

【一般演題 1】 SS・IgG4RD 基礎研究

座長：吉本 桂子（慶應義塾大学医学部 リウマチ・膠原病内科）

山本 元久（東京大学医科学研究所附属病院 アレルギー免疫科）

1-1 シェーグレン症候群における M3R 反応性 Th1 細胞由来 T-iPS 細胞を応用した治療戦略

高橋 広行（筑波大学医学医療系膠原病リウマチアレルギー内科学）

1-2 シェーグレン症候群疾患モデルマウスの病態解析と発症初期新規分子マーカーの探索

田中ゆり子（東邦大学医学部免疫学講座）

1-3 唾液腺炎を自然発症する ROR γ t トランスジェニックマウスに対する ROR γ t アンタゴニストの抑制効果と作用機序

小野 由湖（筑波大学 膠原病リウマチアレルギー内科／

九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野）

1-4 CD4+ T 細胞を軸としたシェーグレン症候群の病態形成機序の解明

飯塚 麻菜（慶應義塾大学医学部微生物免疫学教室）

1-5 唾液腺上皮の細胞老化及び免疫老化が唾液腺機能に与える影響：老齢マウスおよびモデルマウスを用いた解析

黒澤 実愛（国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部）

- 1-6 IgG4 関連疾患の病態形成にオリゴクローナルな血液 Tph 細胞の増加が関与する
 亀倉 隆太 (札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所 免疫制御医学部門/
 札幌医科大学医学部 耳鼻咽喉科学講座)
- 1-7 IgG4 関連疾患において M2 マクロファージは Toll 様受容体 7-IRAK4 シグナルを介して
 IL-1 誘導型炎症を惹起する
 鎮守 晃 (九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野)
- 1-8 IgG4 関連疾患モデルマウス (LAT マウス) における CCL8-CCR8 経路の解析
 本田 文香 (筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学)

11:50~12:40 **【ランチョンセミナー1】**

共催：キッセイ薬品工業株式会社

座長：西山 進 (倉敷成人病センター リウマチ膠原病センター)

小児期患者の経過から Sjögren 症候群を考える

富板美奈子 (国立病院機構下志津病院 小児アレルギー膠原病センター)

12:50~13:20 **【総会】**

13:20~13:50 **【学会賞受賞講演】**

座長：川上 純 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻
 リウマチ・膠原病内科学分野)

14:00~14:50 **【特別講演 1】**

座長：石丸 直澄 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔分子病態学分野)

ゲノム解析から自己免疫および自己炎症病態を紐解く

安友 康二 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 (医学域))

14:50~16:10 **【シンポジウム 2】**

SS・IgG4RD の診断の新機軸

座長：正木 康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)
 中村 英樹 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻
 リウマチ・膠原病内科)

S2-1 シェーグレン症候群によるドライアイの臨床像と免疫異常による病態

小川 葉子 (慶應義塾大学医学部 眼科学教室)

プログラム

S2-2 発症年代別にみたシェーグレン症候群の臨床像

西山 進（倉敷成人病センター リウマチ膠原病センター）

S2-3 シェーグレン症候群（SS）画像診断～その先にあるもの～

高木 幸則（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 頭頸部放射線学分野）

S2-4 日本人一次性・二次性シェーグレン症候群患者の診断における厚労省改訂診断基準と
ACR-EULAR 分類基準の比較

坪井 洋人（筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学／

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業

自己免疫疾患に関する調査研究班 シェーグレン症候群分科会）

16:20～17:10

【イブニングセミナー】

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：川上 純（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻
リウマチ・膠原病内科学分野）

難治性リウマチ性疾患の治療 一分子標的療法か？大量（無差別）免疫抑制療法か？一

堀内 孝彦（九州大学病院別府病院）